

佳作

あなたの隣が似合う私に

山形県東根市立第一中学校

3年 千葉 美優

いつも本当にありがとう。私はあなたに心から感謝し、尊敬しています。私から見たあなたは、誰にでも平等に優しく、面白くて、周りの人を笑顔にできる、太陽のような人です。

あなたとの出会いは小学校6年生の時。クラス替えで同じクラスになったことがきっかけで仲良くなれました。家が近所ということもあり、学校の登下校も一緒なので、共に過ごす時間が一番長い友達の一人でした。

中学生になってから、私は人間関係で悩むことが多くなりました。つらくてどうしようもなく、学校を休むこともたびたびありました。そんな私に、あなたは

「大丈夫？」

「無理しないでね。」

と心配し、いつも温かいメールを送ってくれました。学校で配布されたプリント類も、封筒に入れて毎日家まで届けてくれて、封筒に「元気出してね。」と、励ましの言葉が書かれていたことも、一度や二度ではありません。気持ちが沈んでいた私には、あなたのその優しさが、涙が出るほど嬉しいものでした。

その優しさのおかげで私は、「こんなに私を思ってくれる温かい人がすぐそばにいるのに、学校にも行かずに閉じこもっている私って何なんだ！」と自分に腹が立ち、バッグを背負って、いつもどおりに学校に向かうことができました。そんなふうに私が何日か休んだ次の朝も、あなたは

「おはよう。」

いつもと同じ笑顔で言ってくれるので、私も

「おはよう。」

とだけ返し、いつもどおりの会話を始めることができました。どう接したら私の気が楽なのかを理解して、自然に気遣うことができるあなたは、本当に素敵な人です。

学校での人間関係がうまくいっていなかったために、後ろ指をさされることもあったのですが、あなただけはずっと私の隣にいてくれましたね。それが嬉しくて、自分も何かあなたの力になりたいと、テスト終わりに「リフレッシュに行こう」と遊びに誘ったり、誕生日のサプライズを考えたり、喜んでもらえそうなことをたくさん考え、実行しました。そうしているうちに、いつの間に

かお互いを「親友」と呼ぶようになっていました。

「喧嘩するほど仲がいい」という言葉がありますが、それは私たちには当てはまりません。私たちは一度も喧嘩したことがありません。それどころか、気まずい空気になったことさえ一度もないと思います。実はそれが私にとって気がかりでした。もしかしたら、私がいつもあなたに我慢をさせているのではないかと不安だったのです。だから、あなたの方から

「私たちって、喧嘩したことないよね。千葉が我慢してたりする？」と聞いてきた時は驚きました。あなたも私と同じように考えていたなんて。

「ううん。逆にそっちこそ我慢してるんじゃないの？」と聞き返すと、

「全然。むしろ楽。」
あなたがそう答えてくれたことで、私はほっとしたのです。それまでの不安な気持ちがすっかり晴れました。

私たちは、趣味も好きなものも、好きな食べ物も、得意なことも苦手なことも、何もかも違っています。それでもなお、喧嘩したり気まずくなったりすることがまったくくないのは、お互いのそのまを受け入れ、尊重することができるからだと感じています。

私は、あなたと一緒にいられる今が一番楽しいです。だからこれからも、あなたの隣にいて笑っていたいです。友情とは、どちらかが一方的に我慢したり相手に与えたりする関係ではなく、お互いに対等な関係で成り立つものです。でも今までは、私の方があなたから助けてもらったことの方がずっとずっと多かったと感じています。（こんなふうに言ったらきっとあなたは「そんなことないよ。」と笑うでしょうが。）だから、あなたにも私のことを「尊敬している」と言ってもらえるよう、あなたの隣にいて釣り合う私になれるようがんばります。5年後も、10年後も、私のことをどうぞよろしくお願いします。